

# 飼う前に

# 考えて!

## 【目次】

- 1 ペットを飼いたい! —でもその前に… 2
- 2 飼う前に考える 10のポイント… 4
- 3 情報を集めましょう… 10
- 4 人と動物との共通感染症… 11
- 5 どこから手に入れるか… 12
- 6 飼う楽しさと命を預かる責任… 15



 **環境省**  
Ministry of the Environment

発行:  
環境省自然環境局総務課  
動物愛護管理室

所在地: 〒100-8975  
東京都千代田区霞が関 1-2-2  
<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>

平成 19 年 9 月発行

制作: (財)日本動物愛護協会  
編集・デザイン: あすか工房

○お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ

 R100  
官製配合率100%再生紙を使用しています。



ペットは私たちの生活に潤いと安らぎをもたらしてくれます。ペットの存在が、家庭内や隣人との会話を増やして人間関係を円滑にしたり、子どもたちに自分より弱いものに対するいたわりの心や、命を預かる責任の重さと命の大切さを教えたりするだけでなく、ペットに触れることで血圧が下がったり、表情や感情が豊かになり心が落ち着くなどの心身の健康への効果もいわれています。

今やペットは、一方的に愛情を注いだり姿やしぐさを楽しむためだけの存在ではなく、ともに暮らし、時には心を通い合わせる人生のパートナーとなってきました。

しかし、その一方で、間違った飼い方をしたために、動物の存在が逆にストレスやトラブルの元となっ



たり、アレルギーなど様々な病気の原因になる事例も多発しています。

ペットを飼うことは、その一生を責任もって面倒を見ることです。ペットは私

たち人間と同じように、命ある存在です。毎日食べ、排泄し、眠り、運動し、その世話は休みなく続きます。ペットは意志と感情を持ち、飼い主の思い通りになりません。ペットの起こしたトラブルは、全て飼い主の責任です。

ペットを飼うのに愛情はもちろん必要ですが、「かわいい」という気持ちだけでは生き物は飼えません。ファッションや流行、思い込みや擬人化ではなく、自分が最後まで責任をもって飼えるのか、飼い始める前によく考えましょう。

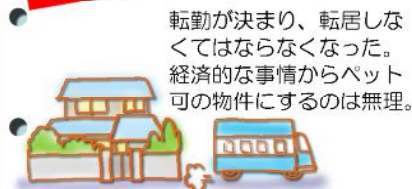


## ペットを飼えなくなるケース

ペットを手放す理由にはこんなケースがあります。

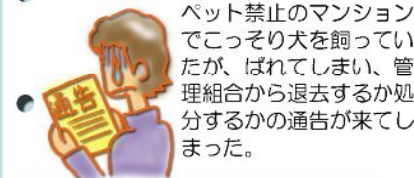
あなたは大丈夫ですか？

### File01 引越で飼えなくなった



転勤が決まり、転居しなくてはならなくなった。経済的な事情からペット可の物件にするのは無理。

### File02 ペット禁止の集合住宅で飼っているのが見つかった



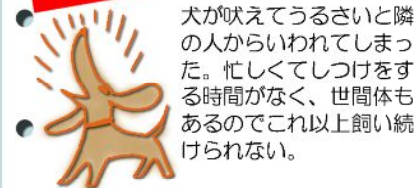
ペット禁止のマンションでこっそり犬を飼っていたが、ばれてしまい、管理組合から退去するか処分するかかの通告が来てしまった。

### File03 子どもにアレルギー症状がでた



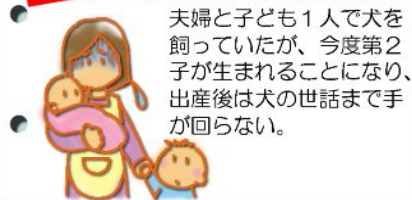
ねこを飼っているが、家族に赤ちゃんが生まれたら皮膚に炎症が出るので検査したところ、ねこの毛に対するアレルギー反応であることが判明した。

### File04 近隣から苦情がきた



犬が吠えてうるさいと隣の人からいわれてしまった。忙しくてしつけをする時間がなく、世間体もあるのでこれ以上飼い続けられない。

### File05 子どもが生まれるので世話をする時間がない



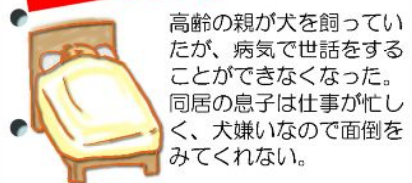
夫婦と子ども1人で犬を飼っていたが、今度第2子が生まれることになり、出産後は犬の世話まで手が回らない。

### File06 高齢になったペットの介護が重い負担に



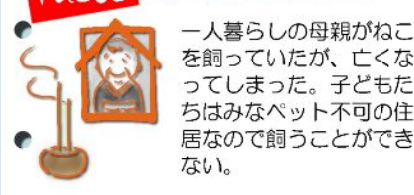
高齢の犬の介護を何年も続けてきたが、飼い主も高齢で病気があり、経済的にも体力的にも続けるのが難しい。

### File07 病気で世話ができなくなった



高齢の親が犬を飼っていたが、病気で世話をすることができなくなった。同居の息子は仕事が忙しく、犬嫌いなので面倒をみてくれない。

### File08 飼い主が亡くなった



一人暮らしの母親がねこを飼っていたが、亡くなってしまった。子どもたちはみなペット不可の住居なので飼うことができない。



飼ってしまったから「こんなはずじゃなかった」とあわてても間に合いません。飼う前に、次の10のポイントについて考えてみましょう。

## 住居環境

あなたの住まいがペットを飼える住居であることは、必要不可欠です。集合住宅の多くは、ペット飼養が禁止されています。最近はペット飼養可のマンションなども増えてきていますが、その場合でも、規約で飼えるペットの種類、大きさ、頭数などが定められていることがほとんどです。様々な住民がいる集合住宅は、飼い主のマナーと社会性が厳しく問われます。「こっそり飼ってしまおう」、「みんなやっているから」などと自分勝手にルールを無視したり、近隣に迷惑をかけることは慎んでください。

借家や社宅などの場合は、所有者の許可が必要です。持ち家の場合でも、広さや家屋の状態に合わせてペットの種類や数を考えなくてはなりません。

今の住居がペットを飼える環境だとしても、転居や転勤の予定があるなら慎重な判断が必要です。

## ポイント1

- あなたの住まいはペットを飼える住居ですか？ 転居や転勤の予定はありませんか？



## ライフスタイル

あなたはどんなライフスタイルを持ち、どんな目的でペットを飼うのでしょうか。

ペットと一緒にキャンプに出かけたりアウトドアを楽しみたい人には、陽気な大型犬が素敵なパートナーになるかもしれませんが、家の中でペットの愛らしい仕草を眺めたりふれあいを楽しみたい人には、ねこがいいかもしれません。

ペットは種によって生態や必要な世話が大きく異なりますし、犬やねこのように人が時間をかけて目的別に多くの品種を作り出してきたペットでは、品種によっても大きく違ってきます。

見た目やイメージに惑わされることなく、そのペットの種類・品種の特性をよく理解して、自分のライフスタイルと目的に合っているか、冷静に判断してください。

## ポイント2

- あなたの飼いたいペットは、あなたのライフスタイルに合っていますか？



シベリアン・ハスキーは、犬種を引いて雪の中を何十キロも走るために作られた犬種ですから、大型で力が強く、走ることが大好きで大量の運動を必要とします。寒さに強い反面、暑さには弱く、暖かい地方では夏はクーラーが欠かせません。はじめから、住宅密集地で一般家庭が飼うには向いていない犬種であることは明らかでした。あの時、シベリアン・ハスキーを飼おうと考えた人が、本当に自分のライフスタイルにあった犬種なのか、冷静になつてよく考えていれば、天寿を全うすることなく消えていった多くの命が救われたはずなのです。

## シベリアン・ハスキーの悲劇

column



## 家族の同意とアレルギー

ペットを飼うのに、家族の理解と協力は不可欠です。あなたが突然の病気やアクシデントに見舞われたときも、家族が協力してくれれば切り抜けることができます。

また、犬など、群れで生活する習性をもつ動物は、家族は自分の群れのメンバーと考える傾向があります。家族の誰かが自分を嫌ったり無関心でいることは、ペットにとって大きなストレスになり、問題行動の原因となることもあります。

ペットを飼うには、家族のメンバー全員が動物好きで、飼うことに同意している必要があります。

ペットを飼い始めたら、喘息や皮膚の湿疹など、家族にアレルギー症状がでたというケースがあります。家族にアレルギー体質の人がいる場合は、動物の毛やふけ、排泄物などにアレルギー反応を起こす可能性があるため、飼う前に医師に相談するなど慎重な判断が必要です。

### ポイント3

- あなたの家族は全員動物を飼うことに賛成していますか？

### ポイント4

- 家族に動物に対するアレルギーを持っている人はいませんか？



## 世話をする時間と体力

ペットは生きていくための全てをあなたに依存しています。毎日の食餌、排泄物の始末、清掃、運動、散歩や遊び、しつけ、健康管理などしなくてはならないことはたくさんあり、これらをこなす時間と体力が必要になります。

特に、鳴き声、臭い、糞の放置は、多くの地域で近隣トラブルの元となっています。近隣に迷惑をかけないために、糞の始末はもちろん、適切なしつけや防音対策などもしなくてはなりません。

二人暮らしの熟年夫婦が、新しい家族としてペットを飼うような場合は、自分たちが歳を重ね、ペットも老いた時の世話や介護のことも考えて、種類や大きさを選んでください。子どもにせがまれてという場合は、ペットが成長しても子どもに世話ができるかどうか、また、子どもの進学、就職、転居などで、結局は親が世話をすることになるケースが多々ありますから、そのことも考慮する必要があります。

癒しやかわいさなどペットから得られるものばかり期待して、世話は面倒だと思ふのなら、ペットを飼い始めるべきではありません。

### ポイント5

- 毎日欠かさず世話に時間と手間をかけられますか？

### ポイント6

- あなたの体力で世話ができるペットですか？

### ポイント7

- 近隣に迷惑をかけないように配慮できますか？





## 経済的な負担

ペットを飼うには、購入代金だけでなく、その後もお金がかかります。

### ●食費

ペットは人とは異なる生き物ですから、その生理に合った食餌を与えなくてはなりません。ほとんどのペットでは成長するにつれて餌の質も量も変わります。高齢や病気のときなどには特別な食餌が必要になります。

### ●ペット用品・設備費

首輪や食器、クレートなどの用品費、ケージ、水槽などの設備費がかかります。初期費用だけでなく、買い替え、修理費、光熱費、水道代など維持管理にかかる費用も考えてください。

### ●健康管理費

ケガや病気の際の治療費だけでなく、ワクチン接種、フィラリアなど各種病気の予防、定期的な健康診断、不妊去勢手術などの医療費がかかります。めずらしい動物の場合は診察できる獣医師が限られたり、特殊な技術が求められるため、医療費はおおむね高額になります。定期的なトリミング（毛のカット）や爪や歯の手入れが必要な動物・品種の場合は、その費用がかかります。

### ●その他

飼養するにあたって、許可や登録、各種ワクチン接種が定められている動物の場合は、その費用がかかります。訓練・調教・しつけなどが必要な動物は、その費用もかかります。

## ポイント8

- ペットの一生にかかる費用を考えてみましたか？



## 生涯にわたる計画

生涯とは、ペットの生涯とともに、あなたの生涯のことも含まれます。

ペットは種類によって寿命が数年のものもあれば、数十年、中には人間よりも長生きするものもあります。一般的なペットである犬やねこでも十数年以上生きます。ペットが高齢になったときの介護のことも考えておかなくてはなりません。

就職、進学、転居、結婚、出産・・・人生には様々な転機があります。将来予測できる生活の変化があった時にペットを飼い続けることができるか、よく考えてみてください。明らかに飼えない状況になることが分かっているのに、飼い始めてしまうのは無責任といえます。

また、あなたが突然入院してしまったり、最悪の場合亡くなってしまったりなど、不幸なアクシデントもあるかもしれません。代わりに飼ってくれる人を見つけておくなど、万一のとき、あなただけを頼りとして生きている命をいかに守ってやるかも考えておくべきことといえるでしょう。

## ポイント9

- 生涯にわたる計画をたててみましたか？



## ポイント10

- 万一、飼えなくなったときのことを考えていますか？



どうでしたか？ 10のポイント全てに「はい」と答えられたでしょうか。



ペットはその種によって、習性や寿命、生活環境や必要な世話が大きく異なります。一般的なペットである犬やねこでも、その本能や習性を知らないで飼っている人は少なくありません。飼う前に、本で調べたり、ペットショップで聞いてみるなどして、信頼できる情報を集めましょう。同じ種類や品種のペットを飼っている人に話を聞いたり、実際に世話をさせてもらうと、具体的にイメージがつかめます。

また、生き物ですから当然個々の性格の違いもあります。購入したりもらってくる前に、オーナーにその個体の個性についてきいてみたり、親やきょうだいを見せてもらうとある程度予測をすることができます。

広告や書籍の中には、「飼いやすい」「おとなしい」「利口」などいいことばかり書いてあるものがありますが、どんなペットにも、長所と短所はありますし、飼う方のライフスタイルによって長所が短所になったりその逆もあります。簡単に飼える生き物などありません。流行や見た目、イメージなどで選んでしまうと、後でとんでもない苦勞をする羽目になりかねませんから、その習性や本能、生態、必要な施設・設備などをきちんと調べ、自分に飼えるのか冷静に判断することが必要です。



数年前、鳴き声もなく毛も飛ばず、散歩の必要もないので、集合住宅でも飼いやすいということで、爬虫類の飼養がブームになったことがありました。中でも、グリーンイグアナは、植物食なので餌の管理がしやすく、店頭に並んだ幼体のエメラルドグリーンさのきれいな色や、20cmほどの小さな体のかわりにもあり、ちよつとした人気となりました。しかし、流行と同時に、紫外線不足や栄養障害で病気になるようになったグリーンイグアナの幼体が動物病院に連れてこられるようになり、数年後には数十cmもある成体のグリーンイグアナが道端などに捨てられているのが発見されるようになりました。グリーンイグアナは熱帯地方原産で、高温の環境と多くの紫外線が必要です。中緯度地帯にある日本でも飼うには、専用の温室と紫外線発生装置が必要ですが、餌も多種類の野菜をバランスよく与えなくてはなりません。また、成長すれば1m近くにもなり、顎や尾の力も強くなります。飼いはじめの前に、どんな施設が必要なのか、何を食べるのか、どのくらいの大さきになるのかなどを調べておけば、不十分な管理が原因で病気になるなど、大きくなりすぎたからと遺棄されるグリーンイグアナはいなかったはずなのです。

爬虫類ブームとグリーンイグアナ

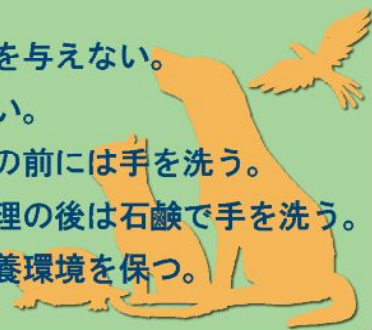
column

人と動物との共通感染症とは、動物から人へ、人から動物へお互いに感染する病気のことです。世界では200種類以上が確認されていて、そのうち約60種類が日本国内でも発生しています。

長く人と共に暮らしてきたペットである犬やねこなどの場合は、病気の種類や治療法も分かっているものが多く、過度に恐れることはありません。一般的な衛生対策を守れば、ほとんどの病気は予防できます。

### 一般的な衛生対策

- ・口移しや同じ食器で食べ物を与えない。
- ・キスなど過剰な接触をしない。
- ・ペットに触った後と、飲食の前には手を洗う。
- ・排泄物はすぐに片付け、処理の後は石鹸で手を洗う。
- ・ペットの健康と衛生的な飼養環境を保つ。



人と暮らした歴史が浅い動物や野生動物は、まだ治療法が確立していない病気や未知の病原体を持つ可能性もあります。特に、乳幼児、高齢者など、家族に抵抗力の弱い人がいる場合は、珍しい動物や野生動物の飼養には慎重な判断が必要です。

また、カメなどの爬虫類は食中毒の原因となるサルモネラ菌をもっていることがあるので、乳幼児のいる家庭や幼稚園などで飼うには不向きです。一般家庭でも、水槽を調理場所の近くに置かない、カメや水に触った手で食品に触れない、触った後には石鹸で手を洗うなどの注意が必要です。

自分の飼おうとする動物に、どんな人と動物との共通感染症があるか調べて、適切な予防策を講じましょう。

狂犬病は人と動物との共通感染症の中でも治療法がなく、発症すると100%死亡する危険な病気なので、犬への毎年のワクチン接種が飼い主に義務付けられています。



## どこから手に入れるか

動物を適切に扱っている信頼できるところから入手することが、健康なペットと暮らす第一歩です。

犬やねこなど、心身の健やかな発達のために、幼少期の一定時期に親やきょうだいと一緒に過ごす「社会化」が不可欠な動物もあります。

若い動物はかわいいものですが、あまりに幼すぎる時期に親から離したり、展示しているようなところから入手すると、将来、問題行動などで苦労することになるかもしれません。

### 動物取扱業から

動物の販売を行うには、動物取扱業の登録が必要になります。購入する前に、登録を受けている業者が確認しましょう。

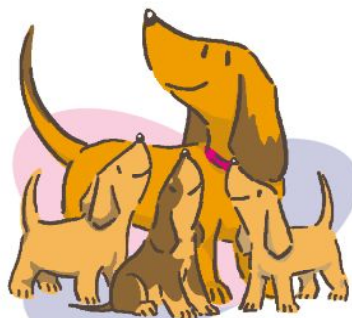
### ペットショップ

ペットを入手する場合で多いのがペットショップからの購入です。かわいい動物が陳列されていれば、ついほしくなりますが、これから十数年も一緒に暮らすのですから、冷静になりましょう。

複数の店舗を見て回って、店の雰囲気や動物の管理、スタッフの知識や飼い方アドバイスの様子などを比較して、良いお店を捜すようにしましょう。良心的な店は説明もよく、相談にも乗ってくれます。あまりに若い動物が陳列されていたり、騒音や照明に無頓着であったり、多数の人に触らせるなど、動物への配慮がなされていない店や、食べ残しや糞が放置されているなど不衛生な店は注意が必要です。

### ブリーダー

ブリーダーとは、動物の繁殖を行っている人たちのことです。動物のプロですから、飼養環境を実際に見たり、飼い方のアドバイスを受けたり出来ます。また、犬やねこなど社会化が必要な動物では、手元に来る直前まで親といさせてやれますし、親きょうだいを見ることができるので、その個体の将来の体格、性格、アレルギーなどの病気の傾向なども予測することができます。



動物について深い愛情と知識をもち、健康管理をきちんと行っているブリーダーであれば、適切なアドバイスと健全なペットを入手することが可能ですが、中には無理な繁殖をしたり、病気の知識や衛生管理が不十分であるなど、不適切なブリーダーもいますので、よく見極めることが必要になります。

CHECK!!

### 動物取扱業者を選ぶときのポイント

- 広告は適切に行われていますか？
 

登録を受けている業者の広告には、登録番号、動物取扱責任者、動物取扱業の種類などが記載されています。
- 店内に登録番号が記入された標識を掲示してありますか？
 

登録を受けている業者は、登録番号や営業の種類、登録期限などを記した標識を店内に掲示しています。
- スタッフは名札（識別票）をつけていますか？
 

スタッフは登録番号や営業の種類、登録期限などを記した名札（識別票）をつけています。
- 購入する前に飼い方や健康状態などの説明はありましたか？
 

販売者は、購入者に対し、販売する前に動物の健康状態やワクチン接種の有無、飼い方、標準体重・体長などの説明をしなければなりません。
- 幼すぎる動物が陳列されたり売られたりしていませんか？
 

離乳前の幼すぎる動物は販売してはいけません。また、犬やネコなど社会化が必要な動物は、その期間、親やきょうだいと一緒にしておかなくてはなりません。
- ケージが狭すぎたり明るすぎたりしていませんか？
 

動物が立ったり寝たりするのに十分な空間を確保し、過度の苦痛を与えないように照明や音に配慮しなくてはなりません。
- 排泄物などで施設が汚れたり悪臭がしていませんか？
 

業者は、排泄物を適切に処理し、施設を常に清潔に保って、悪臭や害虫の発生を防ぐなど、周辺環境にも配慮しなくてはなりません。
- 契約書の内容は適切ですか？
 

内容をよく読んで確認してからサインするようにしましょう。



## 動物保護施設から

飼えなくなったり、飼い主不明で保護されたペットを新しい飼い主に譲渡する事業を、各自治体の動物保護センターや民間の動物愛護団体等が行っています。スタッフがあなたのライフスタイルや生活環境に合った動物をアドバイスしてくれたり、試しに飼ってみる期間を設けている施設もありますので、実際に動物に接して現実的に判断することができます。

ただし、保護されたペットなので、生年月日や年齢、病歴など細かなデータはない場合がほとんどです。自治体の施設では講習会の受講が義務づけられていることがあります。また、民間動物愛護団体等の中には、詐欺まがいの行為をすることもあるので、信頼できる団体なのかよく見極める必要があります。

## CHECK!

## 動物の再飼養支援データベース・ネットワークシステム

<http://www.jawn.jp/>



あなたを持っている動物がいます。やむを得ない事由で自治体に引き取られたり、収容された動物の譲渡を推進する環境省のページです。

## 友人・知人から

友人や知人の家で生まれたペットをもらってくる場合は、ブリーダーからの購入と同じく、飼い方のアドバイスをを受けたり、親きょうだいをみるなどできるなどの利点があります。

しかし、個人的な経験や思い込みで間違った飼い方をしていたり、繁殖や遺伝性疾患に関する知識がないために、病気を持っている場合などもあるので注意が必要です。



犬やねこの喜び姿や、飼い主を信頼しているしぐさなど、ペットと飼い主の絆は、見ている私たちの心をも楽しく暖かくさせるパワーを持っています。自分もあんな風にペットと楽しく暮らしたい、と思うのは自然な感情です。

飼い始めたその日から、ペットの命はあなたにゆだねられます。毎日の世話、住居環境、経済的状況・・・もし、不安や不確定要素があるのなら、今はペットを飼わないほうがいいでしょう。「こんなに大変とは思わなかった。」「忙しい。」「かわいくなかった。」「やっぱり無理。」・・・人はいくらでも言い訳できますが、ペットは口をきくことも、飼い主を選ぶこともできないのです。飼い主の無責任のツケはペットがその命で払うことにもなります。「好きだから、今は飼わない。」「飼えるようになるまで我慢する。」というのも、ペットへの愛情のひとつの形です。

ペットが天寿を全うするまで、数年～数十年に渡る年月を、ともに過ごす喜びをもって飼いきれることができるか、生きる全てをあなたに依存するペットを幸せにしてやれるか、その努力を続けることができるか・・・もう一度自分に問いかけてみてください。

ペットを飼うほんとうの楽しさは、責任と努力の向こうにあるのです。

